TACパワーアップ大会2008を開催

TAC元年にJAのTACを初表彰

JA全農は11月27、28日、「TACパワーアップ大会2008」を東京・大手町のJAビルで開催した。北海道から沖縄まで43の県域から約300人が参加した。地域農業の担い手に出向くJA担当者の全国統一愛称「TAC」を冠とし、初めての全国大会。全国統一基準にもとづく優良TACの表彰や分科会、街頭活動、表彰JAの役員・管理者によるトップ座談会を行った。

農林水産大臣政務官の野村哲郎参議院議員と、全国農協青年組織協議会の矢木龍一参与を来賓として招いた。野村政務官は、TACに悩み、一緒に悩む、一緒に夢を持つことを話した。矢木参与は法人経営の農業者の視点から『JAの『つながり』で地域農業を発展させてほしいこと』エールを送った。

JA全農の本田正治会長は、「JAが農協の組織の輪をJAへ広げ、連合会がそれを支援し、系統として一スクラムを組んで農家の方に評価していただくことが、厳しい農業情勢の今だからこそ求められていると挨拶した。JA全農の神出元一常務は、活動表彰について、「TACの現場化と指導に向けて、情熱的に、継続的にTACの活動を標準化しながら全国的な定着を図っていく。そのクワハラを作っていく第一歩と位置付けた。

参加したTACには今年度取り組んだ事例報告を提出してもらい、約270ページにわたる全取組報告書「事例集」として参加者に配布・共有した。

「TAC」は、地域農業を担う皆さまのパートナーです。

TAC（タック）の役割は？

- 地域農業の担い手を訪問してご意見・ご要望をうかがい、誠実にお応えします。
- 地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報を お届けします。
- 地域農業の担い手のご意見を持ち帰り、JAグループの業務改善につなげます。

TAC（タック）の由来は？

●Team for Agricultural Coordination（農業コーディネーター）

※JAグループと担い手が一緒になって地域農業をコーディネートします

TAC（タック）のキャッチコピーは？

Tとことん、Aあって、Cコミュニケーション!!

表彰JA取組事例発表（要旨）

TAC業務の真髄は現場にあり

青森県　JA新あおもり（現・JA青森）
杉田 幸雄

当JAは本店に管理者を入、TAC2人が配置されています。日々、担い手への訪問や通信、各情報提供や相談・相談対応などを行うことで、担い手との信頼関係づくりに努めています。

TAC業務の真髄は、現場に出向き、担い手から聴き取った内容はJAシステム活用し、部門横断的に取り組むことが、このまま地域の役立っています。

訪問活動のなかで浮き彫りになった課題の二つに、「JA側で営農部門、経済部との兼務行なうようになり、専業の出席最低限にしたい」「専業の出席最低限にしたい」などの声があります。担い手への営農情報の提供や栽培指導が少なくなった」などの声があります